

このページは市民の皆さんと一緒に作るページです。投稿・登場をお待ちしています。秘書広報課（市役所内線207）

ふれあい広場

クローズアップ

今、「旬」の人や団体を紹介します。

いよいよ出荷シーズン到来。甘〜いイチゴをお試しあれ！

農の面から西脇に活力とにぎわいを生み出すことを目指す「スイーツファクトリー支援事業」にチャレンジしている第1期生2人が作ったイチゴが、本格的な収穫期を迎えています。

市が芳田地区に整備した新規就農促進研修棟で、第1期生としてイチゴの栽培・出荷などに取り組みするのは、神戸市出身の永原弘志さんと、ナイジェリア出身のエムヒア・マルコス・ガビー（通称ジャミ



スイーツファクトリー支援事業の第1期生
永原弘志さん(右)
エムヒア・マルコス・ガビーさん(左)

ーさんの2人。2人は昨年9月から、同地区で12年にわたって観光イチゴ園を営む篠田重一さんたちから、「章姫」という品種を中心に指導を受けています。

イチゴ農家を目指して

数年前までバイク店を営んでいた永原さん。将来は農業に携わりたいという思いから、就農研修施設「兵庫楽農生活センター（神戸市西区）」に1年間通い、実習を重ねるうちに「30代の今から真剣に取り組みたい」と考えるようになりました。

日本に住んで19年になるジャミーさんは「母国では農業に従事するのが当たり前なので、日本の最新の農業を学びたかった」と話します。これまで、県立農業大学校（加西市）で1年間、農業を学んできました。

2人にとって、最新の「高設栽培方式」の設備や指導体制が整っている西脇市のスイーツファクトリー支援事

業は、とても魅力的でした。試行錯誤の日々と初出荷

2人の1日はイチゴの収穫が始まります。早朝から収穫を開始し、30〜50パックに詰めて出荷しています。「大変なこともあるけど、最新のノウハウを経験できるのは本当にありがたい」と、毎日、汗を流しています。

ジャミーさんは、日本とナイジェリアの農業のやり方の違いにも興味津々。「日本の農家の人は賢くて向上心の塊だね」と目を輝かせています。当初は、苗作りが遅れるなど、決して順調なすべり出しではありませんでしたが、12月中旬、ようやく2人は最初の収穫期を迎えることができました。その目には、懸命に育てた小さな赤い実が輝いて見えたそうです。

それぞれの夢に向かって

収穫量が安定したら、永原さんは今年中に観光農園を開きたいと考えています。「自分の作ったイチゴで、子どもたちや多くの方を笑顔にした」。ジャミーさんも「早く

イチゴで生計を立てられるようになって、日本で楽しく暮らしたい」と、それぞれの夢を描いています。

最近、永原さんは、地元で紹介を受けて、研修棟近くに空き家を借りました。ジャミーさんも家を探しています。2人は、西脇市での就農および定住に向けて、積極的に地元の方と交流しながら、おいしいイチゴ作りに向き合っています。

イチゴは、ぐっと冷え込む今の季節に一層甘みが増すそうです。2人の作ったイチゴは、市立北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」やJAみのり「ふれすこ西脇店」で購入することができます。ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。



甘みたっぷりのイチゴ

子育て奮闘記

子育て中の皆さんからのおたよりをご紹介します



5歳と2歳の男の子たちのママです。今は、特に長男のことで奮闘中です。入園当初、私のそばから離れられなかった長男は、保育園に慣れるにつれてお友達も増え、楽しく過ごせるようになってきたようでした。ところが、近ごろ、お友だちに乱暴して先生からおしかりを受けることがたびたび。さらに、どうやら反抗期に入ったよう

で、大人顔負けの言葉と、体をいっぴいに使った反抗に、こちらもつい感情的になってしまいます。事前に子育て講演会で学んでいたように「怒る前に一呼吸」をする余裕すらありません。けれど、息子はどんなに厳しくしかれても、夜にはケロッとしてスヤスヤ眠っています。その無邪気な寝顔を見るたびに「大声でしからなく

てもよかったのに、ごめんね」と、私は後悔しきり。考えてみれば、息子は、今まで保育園で嫌なことがあっても、一度も行きたくないと言わず、就寝時に私に愚痴を言うだけでした。近ごろの荒れた行動も、解消できなかったストレスを発散していたのかな、という気がします。あらためて見たその後ろ姿は、思っていたより少し大きくて、「僕も一人でしたっけ前を見て歩いてるよ」と私に伝えてくるかのようです。

私は、何でも先回りして心配ばかりしていたのかもしれないですね。きつとこれからもいろいろ悩むでしょうが、子どもたちの持つ力を信じたいと思います。「大変やけど、子育てはええな」と実母が私によく言うように、私も一緒に成長し、今しかない貴重な時期を楽しみたいものです。

子育て学習センターから

子育ては大変なときもありますが、同時に、成長している子どもの姿に救われることもあります。ちょっとした子どもの成長に愛おしさを感じながら、一緒にいられる日々を大切に過ごしたいですね。

市民の皆さんのまちづくり活動をご紹介します

みんなでまちづくり

日本のへそ日時計の丘オートキャンプ場交流施設 体験教室

- 四季折々の自然の中で、地元の人たちの技や知恵を体験できる「体験教室」を毎月開催しています。▼問合せ NPO法人日時計の丘（☎28・4851）
- ピザづくり ▼とき 2月7日（土）午前10時〜正午 ▼対象 誰でも可（小学生は保護者同伴） ▼定員 20人 ▼参加費 1,000円
 - ハンター料理 ▼とき 2月11日（水・祝）午前10時〜正午 ▼対象 高校生以上（親子連れ可） ▼定員 20人 ▼参加費 2,000円
 - ダッチオープン料理 ▼とき 2月21日（土）午前10時〜正午 ▼対象 高校生以上（親子連れ可） ▼定員 20人 ▼参加費 1,500円
- 西脇区合同防災訓練
▼とき 2月8日（日）午前10時〜11時30分 ▼ところ 西脇区コミセン広場 ▼内容 初期消火訓練、応急処置訓練、AED取扱訓練 ▼問合せ 西脇区事務所（☎22・2127）

あそびの広場（2月）

子どもたちに、手遊びや読み聞かせなどを行います。どなたでも参加できます（10時〜正午）。

○あいいいランド

3日（火）おしゃべり広場
5日（木）ベビーの広場
（総合市民センター2階）

☎22-4150

○へそっこランド

23日（月）ベビーの広場
（黒田庄福祉センター3階）

☎28-5702

◆問合せ 子育て学習センター
（☎28-5702 / ☎28-5703）

いきいきにしわきっ子



ひなと 陽翔 1歳2カ月
はるひ 悠陽 3歳9カ月
陽平・麻由子（和布町）
兄弟仲良く元気に大きくなってね。

いきいきにしわきっ子を募集しています。写真と紹介文、連絡先を市役所2F秘書広報課へ郵送またはご持参ください。